

茨城県つくば市・南作谷^{つくりや}開拓

茨城県つくば市の南作谷^{つくりや}開拓は、筑波山の南西麓にあり、台地が広がっている。

戦時中は陸軍西筑波飛行場であったが、戦後開拓事業の対象となった。

85（昭和 60）年に建てられた碑に南作谷開拓の歴史が刻まれているので紹介する。

「創郷之碑」

自立農家を目指す 54 戸が開拓の鋤をおろしたのは 46 年、続いて国の開拓増産の訓練を受けた 13 戸が加わった。

甚だしい瘦^やせ地に加え、肥料・農具は不足、収穫は皆無に近く、そのためこの地を離れる者が多かった。

明日に希望を繋ぎ、家族をあげての努力を続けるうち、国の助成や融資もあり、経営の危機を続けながらも、次第に収穫物と家畜の増加を見るようになった。

幾度か凍霜害・冷害・干害があつて、経営基盤の浅い我々を苦しめたが全員よく耐え凌いだ。

58 年に始めた芝の作付けはこの地に適するため、急速に広がり、全国有数の生産地となるに至っている。

66 年代から入郷する者増加したが、よく協力・融和し、いささかの違和もない。

むら創り 40 年に際し、改めて過去の苦難を回想するとともに、将来も益々協調し、繁栄するのを願い、記念の碑を建てる。

85 年 11 月吉日

南作谷区民一同

瘦せた土地で困窮していた頃に、このような土地でも育つ芝生が、ゴルフブームで高値がつくという話を聞き、芝生の栽培に望みを託した。

69 年頃の第二次ゴルフブームと共に芝栽培は急速に規模を拡大し、他の集落でも行われるようになった。

現在、茨城県は芝の日本一の産地で、そのほとんどがつくば市で生産されている。「創郷之碑」の周りは、今も壮大な芝の畑が広がり、筑波山のふもとを緑で染めている。

茨城県つくば市・南^{つり}作谷開拓

- ①調査日 2022年5月17日
- ②所在 つくば市作谷
- ③地区の沿革 昭和21年から67戸が入植した。
- ④設置年月日 昭和60年11月
- ⑤設置者 南作谷区民一同
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 創郷之碑

自立農家を目指す五十四戸が開拓の鋤をおろしたのは昭和二十一年、続いて国の開拓増産の訓練を受けた十三戸が加わった。甚だしい痩せ地に加え、肥料・農具は不足、収穫は皆無に近く、そのためこの地を離れる者が多かった。

明日に希望を繋ぎ、家族をあげての努力を続けるうち、国の助成や融資もあり、経営の危機を続けながらも、次第に収穫物と家畜の増加をみるようになった。幾度か凍霜害・冷害・干害があつて、経営基盤の浅い我々を苦しめたが全員よく耐え凌いだ。

昭和三十三年に始めた芝の作付けはこの地に適するため、急速に拡がり、全国有数の生産地となるに至っている。

昭和四十年代から入郷する者増加したが、よく協力・融和し、いささかの違和もない。

むら創り四十年に際し、改めて過去の苦難を回想するとともに、将来も益々協調し、繁栄するのを願い、記念の碑を建てる。 昭和六十年十一月吉日

南作谷区民一同

- ⑧碑文（裏面） 建立者氏名、入植者故人氏名
- ⑨現在の状況 南作谷公民館の傍の神社横に建立

